

九州大学工学部 正員 山崎徳也

〃 学生員 後藤恵之輔

〃 〃 〇川島孝義

1. 序 最近、欧米は勿論、我國においても土木および建築構造物に主として重量が増すことなしに鋼材も強めうる経済的見地より多用されつつあるのがキャスト・リード・ビーム (図-1参照) であるが、その製作に際し問題となるのは(1)傾斜辺の角度 $\theta$ (2)平行辺の長さ $l$ (3)切込み深さ $h$ の値もどの程度にあれば応力集中を避けるかということである。これに關しては村上氏らによる実験的研究<sup>1)</sup>があるが、若者は有孔ばりの理論的研究の一環として本構造を2次元問題として取り扱ひ、かかる問題の理論的解析を試みた。すなわち、キャスト・リード・ビームのゴ

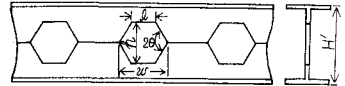


図-1

き内外に境界を有するばりの応力の計算は孔を充てて境界の変換座標を決定することが困難であるゆゑ、本論では前報<sup>2), 3), 4)</sup>と同じく孔が腹部の高さに比べて比較的小さく( $h/H' \leq 0.25$ )、作用する外力から充分遠く離れてゐるという仮定のもとに、腹部に直線形で隅を欠いた左右対称の非正六角形孔を有し、スパン中央部に集中荷重をかけるI型単純ばり (図-4参照) の孔形状を考慮した孔縁応力式を誘導し、算例として正六角形孔を有する矩形断面単純ばりの孔縁応力を算定して隅角部の丸味の孔縁応力にあおよぶ影響を吟味検討した。なお、解は複素変数法により求まることとなる。

2. 写像函数 図-2に示すごとく、Z-面上の原点に中心を有する六角形KがZ-面上の単位円K'に、またKの外部がK'の外部にそれぞれ等角写像されるものとし、かつK上の隅角部 $T_1 \sim T_6$ がK'上の点 $\tau_1 \sim \tau_6$ に相對応するものとすれば、文獻(4)を参照して次式がえられる。

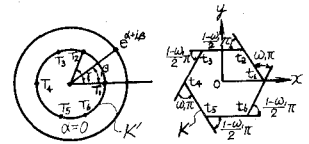
Z-Plane ( $Z = x + iy$ ) Z'-Plane ( $Z' = e^{i\theta}$ )

図-2

$$Z = N \left( \zeta - \frac{f_2}{\zeta} - \frac{f_4}{\zeta^3} - \frac{f_6}{\zeta^5} - \frac{f_8}{\zeta^7} - \frac{f_{10}}{\zeta^9} - \dots \right) \quad (1)$$

ここに  $f_n$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) は  $\omega_n$  の函数で  $N$  は Z-面と Z'-面とのスケール比である。式(1)が所要の写像函数であり、無限級数において Z-面上の完全な直線形で隅に丸味をもたない六角形を Z'-面上の単位円に写像する。しかし実際問題として無限項をとることは煩雑を招き、また有限項で打ち切ってもその項数にえられる図形との関係が明確でないゆゑ、本論では Heller らの写像法<sup>5)</sup>を用うることとする。すなわち、式(1)の有限項をとり、その項数および係数を変化させることにより直線形で隅に任意の曲率半径を有する六角形を写像することができ、かかる孔形に適した写像函数が次式で与えられることとなる。

$$Z = A\zeta + \frac{B}{\zeta} + \frac{C}{\zeta^3} + \frac{D}{\zeta^5} + \frac{E}{\zeta^7} + \frac{F}{\zeta^9} + \dots \quad (2)$$

3. 写像函数の係数の決定 式(2)を展開し両辺の実数部と虚数部とをそれぞれ等置して  $\alpha = 0$  とすれば、孔の境界を定義する次式がえられる。

$$\left. \begin{aligned} x &= (A+B)\cos\theta + C\cos 3\theta + D\cos 5\theta + E\cos 7\theta + F\cos 9\theta + \dots \\ y &= (A-B)\sin\theta - C\sin 3\theta - D\sin 5\theta - E\sin 7\theta - F\sin 9\theta - \dots \end{aligned} \right\} \quad (3)$$

式(3)中の係数  $A, B, C, \dots$  は実際の孔をなるべく正確に表わすべく決定しなければならないが、本論では8ヶの値  $A, B, C, D, E, F, G$  および  $H$  を決定し、応力計算には  $A, B, C, D, E$  および  $F$  の6ヶを用うることとする。係数決定の条件は式(3)で定義される曲線が与えられた一連の点を通過すること、これらの点を図-3に示すが、各点の座標値は次のことである。

$$\left. \begin{aligned}
 x_1 &= 0.1x + \rho; & y_1 &= 0 \\
 x_2 &= 0.1x + \rho \cos \theta_2; & y_2 &= \rho \sin \theta_2 \\
 x_3 &= 0.5 \cos \frac{1-2\bar{\theta}}{2} \pi; & y_3 &= 0.25 \sin (1-2\bar{\theta}) \pi \\
 x_4 &= 0.2x + \rho \cos \theta_4; & y_4 &= 0.2y + \rho \sin \theta_4 \\
 x_5 &= 0.2x + \rho \cos \theta_5; & y_5 &= 0.2y + \rho \sin \theta_5 \\
 x_6 &= 0.2x + \rho \cos \theta_6; & y_6 &= 0.2y + \rho \sin \theta_6 \\
 x_7 &= 0.5 \lambda; & y_7 &= 0.5 \lambda \\
 x_8 &= 0; & y_8 &= 0.5 \lambda
 \end{aligned} \right\} \dots (4)$$

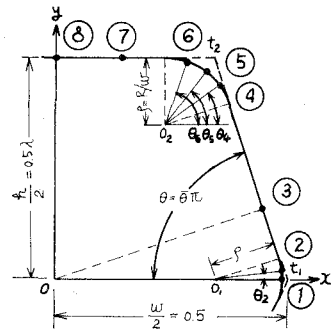


図 - 3

ただし  $A_k = 0.5$ ,  $B_k = 0.5 - 0.5 \lambda \cos \bar{\theta} \pi$ ,  $B_y = 0.5 \lambda$ .

$$0.1x = A_k - \rho \cos \bar{\theta} \pi, \quad 0.2x = B_k - \rho \tan \frac{\bar{\theta}}{2} \pi, \quad 0.2y = B_y - \rho, \quad \bar{\theta} = \theta/\pi$$

こゝに孔は計算の便宜のため、もとの隅に丸味をもたない六角形が単位幅  $w=1$  となるような形状とし高さ  $h=1$  である。座標  $x, y$  は解を簡単にするため固定していない。対称性により  $\beta_1 = 0$ ,  $\beta_2 = \pi/2$  であり、 $\beta_3$  は既知であるとする。式(4)と式(3)に代入すると  $x=0$  において未定係数  $A \sim H$  および未知量  $\beta_2 \sim \beta_6$  に関する13元連立方程式がえられ、Newtonの反復解法により決定されることになる。なお、 $\theta_2, \theta_4, \theta_5, \theta_6$  の1値としてはそれぞれ  $\pi/12, \pi/4, \pi/3, 5\pi/12$  とする。4. スピン中央点に集中荷重をかけるI型単純ばりの孔縁応力式の誘導 図-4に示すような荷重端を考えれば、孔の応力

遠く離れた位置にある梁部の応力は次式で与えられる。

$$\sigma_x = \frac{P(L+x)(y+c)}{I}, \quad \sigma_y = 0, \quad \tau_{xy} = \frac{P}{2I} \{ L^2 - (y+c)^2 \} \dots (5)$$

ここに  $x \leq L-L$ ,  $c$ : 孔中心の中立軸からの偏心率,  $I$ : もとの孔をもたないI型ばりの中立軸に関する断面二次モーメント,  $L$ : 左支点から孔中心までの距離,  $L'$ : 左支点からスピン中央点までの距離  $L'$  は次式で与えられるものである。

$$L' = \left( \frac{H'}{2} \right)^2 \left[ 1 + \frac{2b^2 c}{\left( \frac{H'}{2} \right)^2} \right]$$

直角座標における応力  $\sigma_x, \sigma_y$  および  $\tau_{xy}$  は次式に示す Kolosov-Muskhelishvili の公式によってポテンシャル函数  $\Phi(z)$  と  $\Psi(z)$  により決定される。

$$\left. \begin{aligned}
 \sigma_x + \sigma_y &= 2 \{ \Phi'(z) + \bar{\Phi}'(\bar{z}) \} \\
 \sigma_y - \sigma_x + 2i\tau_{xy} &= 2 \{ \bar{z} \Phi'(z) + \Psi'(z) \}
 \end{aligned} \right\} \dots (6)$$

$$= 2 \{ \bar{z} = x - iy, \quad ' = \frac{d}{dz} \}$$

よってポテンシャル函数  $\Phi(z)$  および  $\Psi(z)$  は

$$\Phi(z) = \sum_{n=1}^k A_n z^n + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{a_n}{z^n}, \quad \Psi(z) = \sum_{n=1}^k B_n z^n + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{b_n}{z^n} \dots (7)$$

と表わされるゆえ、式(5)および式(7)と式(6)に代入して未定係数  $A_n, B_n$  を決定すれば  $\Phi(z)$  および  $\Psi(z)$  が次式で与えられることになる。

$$\left. \begin{aligned}
 \Phi(z) &= \frac{P}{24I} \{ 6Le^2 z + 3(e-L)^2 z^2 - Lz^3 \} + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{a_n}{z^n} \\
 \Psi(z) &= \frac{P}{24I} \{ -12[L+L(e-L)^2] z - 3(3e-L)z^2 + Lz^3 \} + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{b_n}{z^n}
 \end{aligned} \right\} \dots (8)$$

キャストレッド・ビームの孔縁はバネなどを通して通常何らの外力も作用していないゆえ、孔縁における境界条件として次式が成立する。

$$\varphi(\sigma) + \frac{\bar{z}(\sigma)}{z(\sigma)} \bar{\varphi}(\bar{\sigma}) + \bar{\psi}(\bar{\sigma}) = 0 \dots (9)$$

ここに  $\bar{z}(z) = \bar{z}[z(s)] = \bar{g}(s)$ ,  $\bar{\psi}(z) = \bar{\psi}[z(s)] = \bar{\psi}(s)$ ,  $\sigma = (s)_{\sigma=0} = e^{i\theta}$

式(9)より所要のポテンシャル函数  $\varphi(s)$  を決定しうるのであるが、式(2)の写像函数と式(8)より式(9)に必要な諸

函数が次のごとくえられる。

$$\left. \begin{aligned} \varphi(s) &= \frac{P}{24I} \left\{ 6LeAs + 3(e-1L)A^2s^2 - LA^3s^3 + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{a_n}{s^n} \right\}, \quad \bar{\varphi}(\bar{s}) = \frac{P}{24I} \left\{ 6LeA + \frac{6(e+1L)A^2}{\bar{s}} + i\frac{3A^3}{\bar{s}^2} - \sum_{n=1}^{\infty} n\bar{a}_n\bar{s}^{n+1} \right\} \\ \psi(s) &= \frac{P}{24I} \left\{ [12\{Le + i(e^2-k^2)\}A]s - 3(3e+1L)A^2s^2 + i2A^3s^3 + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{b_n}{s^n} \right\}, \quad \bar{\psi}(\bar{s}) = \frac{P}{24I} \left\{ [12\{Le - i(e^2-k^2)\}A]\bar{s} - 3(3e+1L)\frac{A^2}{\bar{s}} - i\frac{2A^3}{\bar{s}^2} + \sum_{n=1}^{\infty} n\bar{b}_n\bar{s}^n \right\} \dots (10) \\ Z(s) &= A\delta + \frac{B}{s} + \frac{C}{s^2} + \frac{D}{s^3} + \frac{E}{s^4} + \frac{F}{s^5}, \quad \bar{Z}(\bar{s}) = A - B\bar{s}^2 - 3C\bar{s}^4 - 5D\bar{s}^6 - 7E\bar{s}^8 - 9F\bar{s}^{10} \end{aligned} \right\}$$

式(10)を式(9)に代入して式(8)の $\bar{Z}(\bar{s})$ に相当する部分を部分分数に展開して整理すれば次式がえられる。

$$\left. \begin{aligned} \varphi(s) + \left( \frac{C_1}{s} + \frac{C_2}{s^2} + \frac{C_3}{s^3} + \frac{C_4}{s^4} + \frac{C_5}{s^5} \right) \left\{ \frac{P}{24I} \left[ 6LeA + \frac{6(e+1L)A^2}{s} + i\frac{3A^3}{s^2} - \sum_{n=1}^{\infty} n\bar{a}_n s^{n+1} \right] \right. \\ \left. + \frac{P}{24I} [12\{Le - i(e^2-k^2)\}A] \frac{A}{s} - 3(3e+1L)\frac{A^2}{s^2} - i\frac{2A^3}{s^3} \right\} + \sum_{n=1}^{\infty} \bar{b}_n s^n = 0 \dots (11) \end{aligned} \right\}$$

$$\left. \begin{aligned} \text{ここに} \quad C_1 &= \frac{B}{A} + \frac{BC+3CD+5DE+7EF}{A^2} + \frac{B^2D+6BCE+16BDF+9C^2F}{A^3} + \frac{B^2E+7B^2CF}{A^4} + \frac{B^4F}{A^5} \\ C_2 &= \frac{C}{A} + \frac{B^2+3CE+5DF}{A^2} + \frac{B^2E+6BCF}{A^3} + \frac{B^3F}{A^4} \\ C_3 &= \frac{D}{A} + \frac{BE+3CF}{A^2} + \frac{B^2F}{A^3}, \quad C_4 = \frac{E}{A} + \frac{BF}{A^2}, \quad C_5 = \frac{F}{A} \end{aligned} \right\} \dots (12)$$

式(11)の両辺に $A\delta/24i(e-k^2)$ を乗じ Cauchy の定理を用いて積分すれば次式がえられる。

$$\left. \begin{aligned} \varphi(s) &= \frac{P}{24I} \left\{ 6LeAs + 3(e-1L)A^2s^2 - LA^3s^3 + \left[ -\frac{P}{24I} 6LeAc_1 + \bar{a}_1c_3 + 3\bar{a}_3c_5 + 5\bar{a}_5c_7 + 7\bar{a}_7c_9 + \frac{P}{24I} 12\{Le - i(e^2-k^2)\}A\right] \frac{1}{s} \right. \\ &\quad + \left[ -\frac{P}{24I} 6(e+1L)A^2c_1 + 2\bar{a}_1c_3 + 4\bar{a}_3c_5 + 6\bar{a}_5c_7 + \frac{P}{24I} 3(3e+1L)A^2\right] \frac{1}{s^2} + \left[ -\frac{P}{24I} 6LeAc_3 - \frac{P}{24I} i3A^3c_1 + \bar{a}_1c_3 + 3\bar{a}_3c_5 + 5\bar{a}_5c_7 \right. \\ &\quad + \frac{P}{24I} i2A^3\left. \right] \frac{1}{s^3} + \left[ -\frac{P}{24I} 6(e+1L)A^2c_3 + 2\bar{a}_1c_5 + 4\bar{a}_3c_7\right] \frac{1}{s^4} + \left[ -\frac{P}{24I} 6LeAc_5 - \frac{P}{24I} i3A^3c_3 + \bar{a}_1c_5 + 3\bar{a}_3c_7\right] \frac{1}{s^5} \\ &\quad + \left[ -\frac{P}{24I} 6(e+1L)A^2c_5 + 2\bar{a}_1c_7\right] \frac{1}{s^6} + \left[ -\frac{P}{24I} 6LeAc_7 - \frac{P}{24I} i3A^3c_5 + \bar{a}_1c_7\right] \frac{1}{s^7} + \left[ -\frac{P}{24I} 6(e+1L)A^2c_7\right] \frac{1}{s^8} \\ &\quad + \left[ -\frac{P}{24I} 6LeAc_9 - \frac{P}{24I} i3A^3c_7\right] \frac{1}{s^9} + \left[ -\frac{P}{24I} 6(e+1L)A^2c_9\right] \frac{1}{s^{10}} + \left[ -\frac{P}{24I} i3A^3c_9\right] \frac{1}{s^{11}} \end{aligned} \right\} \dots (13)$$

式(10)の $\varphi(s)$ の式と式(13)とを比較して $s$ の同次の項の係数を比較すれば、決定係数 $a_1 \sim a_{11}$ に関する連立方程式がえられる。

これを解くことにより $a_1 \sim a_{11}$ が次のごとく決定される。

$$\left. \begin{aligned} a_1 &= \frac{PA}{24I} (-6Lea_1' + i3a_1''), \quad a_2 = \frac{PA}{24I} (-3eAa_1' + i3LAa_1'') \\ a_3 &= \frac{PA}{24I} (-6Lea_3' + iAa_3''), \quad a_4 = \frac{PA}{24I} (-6eAa_3' + i6LAa_4'') \\ a_5 &= \frac{PA}{24I} (-6Lea_5' + i3Aa_5''), \quad a_6 = \frac{PA}{24I} (-6eAa_5' + iLAa_6'') \\ a_7 &= \frac{PA}{24I} (-6Lea_7' + i3Aa_7''), \quad a_8 = \frac{PA}{24I} (-6eAa_7' - i6LAa_8'') \\ a_9 &= \frac{PA}{24I} (-6Lea_9' - i3A^2a_9''), \quad a_{10} = \frac{PA}{24I} (-6eAa_9' - i6LAa_{10}'') \\ a_{11} &= \frac{PA}{24I} (-i3A^2a_{11}'') \end{aligned} \right\} \dots (14)$$

$$\left. \begin{aligned} \text{ここに} \quad a_1' &= \frac{(-2C_1+5C_5C_7+7C_3C_9)(1-3C_7-15C_9)+3(C_3+5C_5C_7)(C_5+5C_7C_9)}{(1-C_3-5C_7^2-7C_7^2)(1-3C_7-15C_9)-3(C_5+5C_7C_9)^2}, \\ a_1'' &= \frac{(-4\{e^2-k^2\}-5A^2C_7C_9+7A^2C_5C_9)(1+3C_7-15C_9)-A^2(C_5+5C_7C_9)(1-3C_7-15C_9)}{(1+C_3-5C_7^2-7C_7^2)(1+C_3-15C_9)-3(C_5+5C_7C_9)^2}, \\ a_2' &= \frac{(-3C_5C_7+12C_5C_9)(1+4C_9)+8C_3C_7}{(1-2C_5-12C_7^2)(1+4C_9)-8C_7^2}, \quad a_2'' = \frac{(1-2C_1+2C_5C_7)(1+4C_9)-8C_3C_7}{(1+2C_5-12C_7^2)(1+4C_9)-8C_7^2}, \\ a_3' &= \frac{C_3+5C_5C_7+(C_5+5C_7C_9)a_1'}{1-3C_7-15C_9}, \quad a_3'' = \frac{A^2(2-3C_1+15C_5C_7)-3(C_5+5C_7C_9)a_1''}{1+3C_7-15C_9}, \\ a_4' &= \frac{C_3+C_7a_1'}{1-4C_7}, \quad a_4'' = \frac{-C_3-C_7a_1''}{1+4C_7}, \\ a_5' &= C_5+C_7a_1'+3C_7a_3', \quad a_5'' = -A^2C_3-C_7a_1''-C_7a_3'', \\ a_6' &= C_5+C_7a_2', \quad a_6'' = -C_5-6C_7a_2'', \\ a_7' &= C_7+C_7a_1', \quad a_7'' = -A^2C_5-C_7a_1'' \end{aligned} \right\} \dots (15)$$

したがって桁数の本関数 $\varphi(s)$ が次式のごとく決定されることになる。

$$q(s) = \frac{PA}{4EI} \left[ 6Le^2 + 3(e-iL)Ae^2 - iA^2e^2 + \frac{-6Leq_1 + i3Aq_1^2}{s^2} + \frac{-3eAq_1^2 + i3LAq_1^2}{s^2} + \frac{-6Leq_1^2 + iAq_1^2}{s^3} + \frac{-6eAq_1^2 + i6LAq_1^2}{s^3} \right. \\ \left. + \frac{-6Leq_1^2 + i3Aq_1^2}{s^3} + \frac{-6eAq_1^2 + iLAq_1^2}{s^3} + \frac{-6Leq_1^2 + i3Aq_1^2}{s^3} - 6(e+iL)Aq_1 \frac{1}{s^2} + (-6Leq_1 - i3A^2C_1) \frac{1}{s^2} - 6(e+iL)Aq_1 \frac{1}{s^2} \right. \\ \left. - i3A^2C_1 \frac{1}{s^2} \right] \quad \dots\dots\dots (16)$$

次にこのポテンシャル関数を用いて孔縁応力  $[(\sigma_\theta)_{\alpha=0}]$  の式を導く。決定される。

$$(\sigma_\theta)_{\alpha=0} = 2 \left\{ \frac{y'(\alpha)}{r'(\alpha)} + \frac{\bar{y}'(\bar{\alpha})}{\bar{r}'(\bar{\alpha})} \right\} \quad \dots\dots\dots (17)$$

式(2)と式(16)と式(17)に代入整理して必要な孔縁応力式が次の式で与えられることになる。

$$J_0 \left\{ \frac{(\sigma_\theta)_{\alpha=0}}{\frac{PLH}{2I}} \right\} = \frac{A}{12} \left\{ \frac{e}{s_0} (A_0 + A_2 \cos 2\beta + A_4 \cos 4\beta + A_6 \cos 6\beta + A_8 \cos 8\beta + A_{10} \cos 10\beta) + \frac{A}{s_0} \frac{e}{L} (A_1 \cos \beta + A_3 \cos 3\beta + A_5 \cos 5\beta + A_7 \cos 7\beta + A_9 \cos 9\beta + A_{11} \cos 11\beta) \right. \\ \left. + \frac{A}{s_0} (B_1 \sin \beta + B_3 \sin 3\beta + B_5 \sin 5\beta + B_7 \sin 7\beta + B_9 \sin 9\beta + B_{11} \sin 11\beta) + \frac{1}{L s_0} (B_2 \sin 2\beta + B_4 \sin 4\beta + B_6 \sin 6\beta + B_8 \sin 8\beta + B_{10} \sin 10\beta + B_{12} \sin 12\beta) \right\} \quad \dots\dots\dots (18)$$

ここに  $A_0 \sim A_{10}$  = 省略、  $A_1 \sim A_{11}$  = 省略

$$B_1 = 12 \{ A + Bq_1^2 - 3C(A_0^2 - 4A_4^2) - 5D(4A_4^2 - A_0^2) + 7E(8C_1 - A_0^2) - 18F(4C_1 - 5A_4^2) \}$$

$$B_3 = -12 \{ Aq_1^2 + B(1 - 4A_4^2) - 3C(A_0^2 - 8C_1) + 5D(A_0^2 - 8C_1) + 14E(2A_4^2 - 5C_1) + 9FA_0^2 \}$$

$$B_5 = -12 \{ 4A_4^2 - 8A_0^2 + 3C(1 - 8C_1) - 5D(C_1 + 7EA_4^2 + 36FA_4^2) \}$$

$$B_7 = -12 \{ Aq_1^2 - 8Bq_1 - 30Cq_1 + 5D + 9FA_0^2 \}, B_9 = -12 \{ 8AC_1 - 10BC_1 + 7E \}, B_{11} = -12 \{ 10AC_1 + 9F \}$$

$$B_{12} = -6 \{ (A_1^2 - A_7^2 - BA_3^2 + 3C(A_4^2 - 5A_0^2) + 5D(A_4^2 - 7A_0^2) + 7E(5A_4^2 - 9A_0^2) + 9F(7A_4^2 - 11A_0^2) \}$$

$$B_4 = -6 \{ Aq_1^2 - B(5A_4^2 - A^2) - 21Cq_1^2 + 5D(q_1^2 - 9A^2C_1) + 7E(A_4^2 - 11A^2C_1) + 45FA_4^2 \}$$

$$B_6 = -6 \{ 5A_4^2 - 7BA_4^2 - 3A^2C(9C_1 - 1) - 55A^2Dq_1 + 7EA_4^2 + 9FA_4^2 \}$$

$$B_8 = -6 \{ 7A_4^2 - 9A^2Bq_1 - 33A^2Cq_1 + 55A^2D + 9FA_4^2 \}, B_{10} = 6A^2(11BC_1 - 7E), B_{12} = -6A^2(11AC_1 + 9F).$$

孔の半方向の偏りも考慮する場合 式(18)において  $e=0$  とおくと、この場合の孔縁応力式は次の式になる。

$$J_0 \left\{ \frac{(\sigma_\theta)_{\alpha=0}}{\frac{PLH}{2I}} \right\} = \frac{A}{12} \left\{ \frac{A}{s_0} (B_1 \sin \beta + B_3 \sin 3\beta + B_5 \sin 5\beta + B_7 \sin 7\beta + B_9 \sin 9\beta + B_{11} \sin 11\beta) + \frac{1}{L s_0} (B_2 \sin 2\beta + B_4 \sin 4\beta + B_6 \sin 6\beta + B_8 \sin 8\beta + B_{10} \sin 10\beta + B_{12} \sin 12\beta) \right\} \quad (19)$$

式(19)において右辺2項の  $L$  は nominal shear stress  $(P/H^2w)$  の nominal bending stress  $(PLH/2I)$  に対する比、すなわち shear-moment ratio  $(\tau/\sigma)$  を用いて表すことができる。

$$L = \frac{1}{\tau} \frac{2I}{H^2w} \quad \dots\dots\dots (20)$$

したがって式(19)の孔縁応力式を次の式で表すことができる。

$$J_0 \left\{ \frac{(\sigma_\theta)_{\alpha=0}}{\frac{PLH}{2I}} \right\} = \frac{A}{12} \left\{ \frac{A}{s_0} (B_1 \sin \beta + B_3 \sin 3\beta + B_5 \sin 5\beta + B_7 \sin 7\beta + B_9 \sin 9\beta + B_{11} \sin 11\beta) \right. \\ \left. + \frac{\tau}{\sigma} \frac{H^2w}{2I s_0} (B_2 \sin 2\beta + B_4 \sin 4\beta + B_6 \sin 6\beta + B_8 \sin 8\beta + B_{10} \sin 10\beta + B_{12} \sin 12\beta) \right\} \quad \dots\dots\dots (21)$$

5. 計算例 省略

6. 結 語

本論は孔の荷重が未知で充分な安全度のもとに使用されるキャスト・リード・ビームと理論的に徹底的に解析するための基礎的研究として行ったもので、隣接孔の影響を無視し、かつ孔が桁高に比較してかなり大きい場合については考慮していないが、実際構造物の性状も把握するうえにおいて充分効力を発揮するものと思われる。キャスト・リード・ビームには八角形孔もあるものもあるが、これについても本論の手法もそのまま適用可能で、隣接孔の影響も考慮した場合および孔がかなり大きい場合やパイプ孔の円形析などとは並行して目下研究進行中であり、有限要素法による解法とともに後日発表の予定である。

- 1) 村上一ほか3名, 九大工學集報, 39-4, 昭和42年1月。
- 2) 山崎・後藤, 九大工學集報, 40-5, 昭和42年11月。
- 3) 山崎・後藤, 第17回応用力學連合講演会論文抄録集, 昭和42年10月。
- 4) 山崎・後藤, 昭和42年度土木学会西部支部研究発表会論文集, 昭和43年2月。
- 5) S.R. Heller, Jr, et al., Proc. 3rd U.S. Natl. Cong. Appl. Mech., Jun. 1958.